町会だより

和田三丁目東町会

2018
1月号Ⅰ

新年ご挨拶

和田三丁目東町会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで楽しいお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当町会の諸活動に対し、多大なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昨平成29年は九州北部豪雨に象徴される異常気象に、年間を通して悩まされた他、北朝鮮の核開発や度重なるミサイルの発射実験で喚起された、東アジアの緊張状態が高まったまま推移した一年でした。米国のトランプ政権の露骨な「ＵＳＡファースト」に起因する世界各地での混乱も、まだ当分は沈静化しないでしょうから、従前からの首都直下型震災や記録的集中豪雨などの自然災害への備えに加えて、人為的に発生する不測の事態への対応もないがしろには出来ないので、非常に重たい課題を抱えた地域活動の展開が求められる時勢になりつつあります。

「地平天成」の安寧な世界を念願して「昭和」から改元された「平成」でしたが、三十年経過の顛末は、退位される天皇陛下の切なるご期待に反して、不穏な世界情勢を抱えた残念な終焉を迎えつつあります。そのような時勢ではありますが、町会員の皆様の平和で幸せな日常生活の維持継続を第一義に、新しいこの一年間も町会活動に注力したいと考えております。

前述の新春の抱負に偽りはないのですが、世の中と同じスピードで現職の町会役員の高齢化も進捗しています。顧問を含めて30名でスタートした今期の町会執行部の年齢構成は、80歳代が5名、70歳代が17名、60歳代以下が8名でしたが、期中に1名が亡くなり、入院中が2名、最多数の70歳代も大半が加齢に伴う何某かの健康不安を抱えている状況です。

このような高齢者中心の町会運営は、１９６４年の東京オリンピックの時点では、全国で僅か150人ほどだった100歳以上が、53年後の２０１７年では６万８千人にまで増加しているこの長寿国では、極々あたりまえの平均的な姿なのかも知れません。

新春に相応しい話題でなくて申し訳ないのですが、現実的な問題として、町会執行部の高齢化によるマンパワーの衰退を実感するのは、地域住民の相互支援の仕組みの維持に関わる部分です。端的には前委員の病気退任で生じた民生委員空白エリヤが解消の目処が全く立たず、災害時要配慮者に対する支援の仕組みが機能しないことが危惧されます。

高南中学校震災救援所の開設に伴い、町会員ご家族の災害時要配慮者の安否確認と避難支援、単身高齢者町会員の孤独死防止を目的に「見守り隊」を立ち上げて既に8年が経過しました。幸いなことに東日本大震災以降は大災害も無く、孤独死事件の発生も在りませんが、見守り隊員自身の高齢化や健康不安が要因となって、緊張感のある仕組みの構築・維持が困難になりつつあります。地域住民の相互支援の仕組みは、これまでのような一部の町会員有志の献身だけでは維持し切れないのが現実です。希求すべきは町会員の皆様全員が各々普段の生活の中で、近隣共助に習慣的に直接貢献する形で関わって頂くことです。毎度申し上げていますが、この地で永年培われてきた「良き地縁」が、昨今の利己的な「自分ファースト」に真逆な、やさしい「近隣ファースト」を醸成してくれることを期待したいと思います。

末筆になりましたが、平成30年の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成３０年1月吉日
和田三丁目東町会
会長　志達　和雄